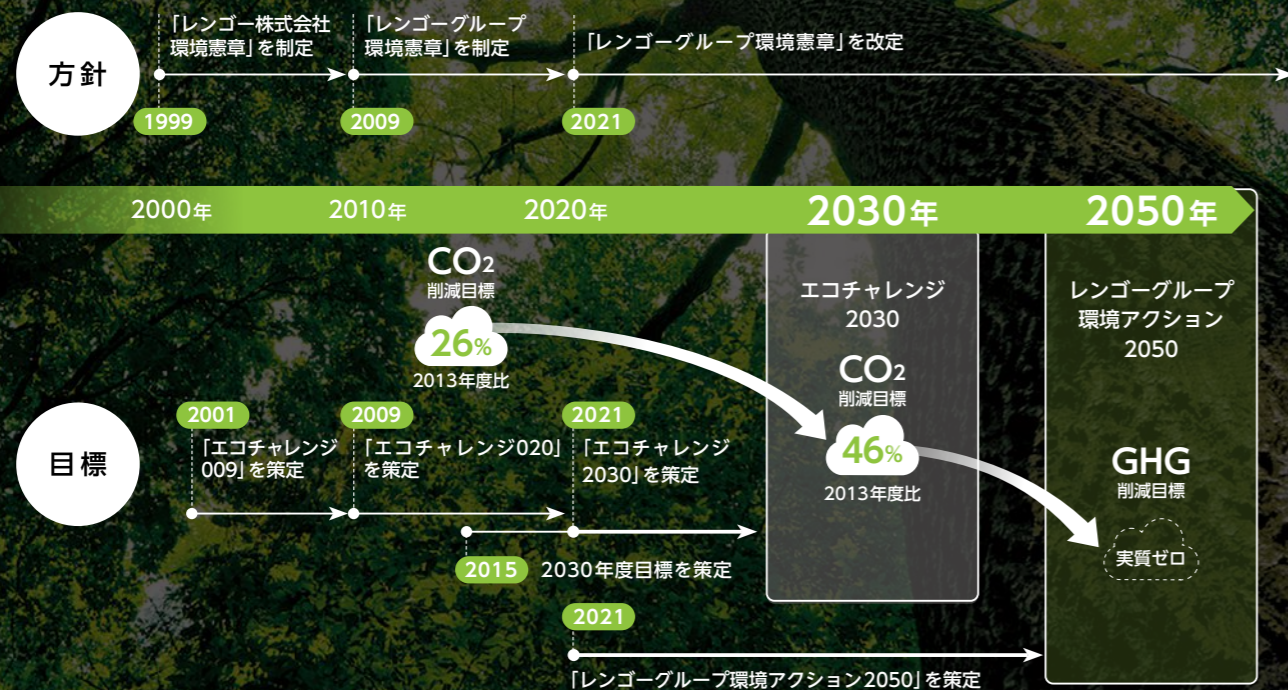


# 2050年に向けての環境への取組み

多様化する環境問題に対する企業の取組みの重要性がますます高まっていることを背景に、2021年4月に「レンゴグループ環境憲章」を改定し、併せて環境に関する目標として、2050年を見据えた長期目標「レンゴグループ環境アクション2050」および2030年度までの中期目標「エコチャレンジ2030」を策定しました。グループ一体となって目標の達成に向けて取組み、持続可能な社会の実現に向けて貢献します。



## 「レンゴグループ環境憲章」

環境憲章は当社グループが持続的発展のために掲げた、環境経営に関する理念と方針です。1999年に「レンゴ株式会社環境憲章」を制定後、創業100周年を迎えた2009年には「レンゴグループ環境憲章」となりました。今回の改定では、地球環境に配慮することを絶対条件として、企業活動を行っていくうえで必要となる7つの基本方針を定めています。この基本方針を実践することで、持続可能な社会の実現へ貢献することを宣言しています。

「レンゴグループ環境憲章」の詳細はこちら [→P.25](#)

## 「レンゴグループ環境アクション2050」

持続可能な社会の実現に向けて、2050年を見据えた長期目標「レンゴグループ環境アクション2050」を策定しました。

中期目標となるエコチャレンジを着実に達成しながら、2050年の目標達成に向けて取組みを進めます。

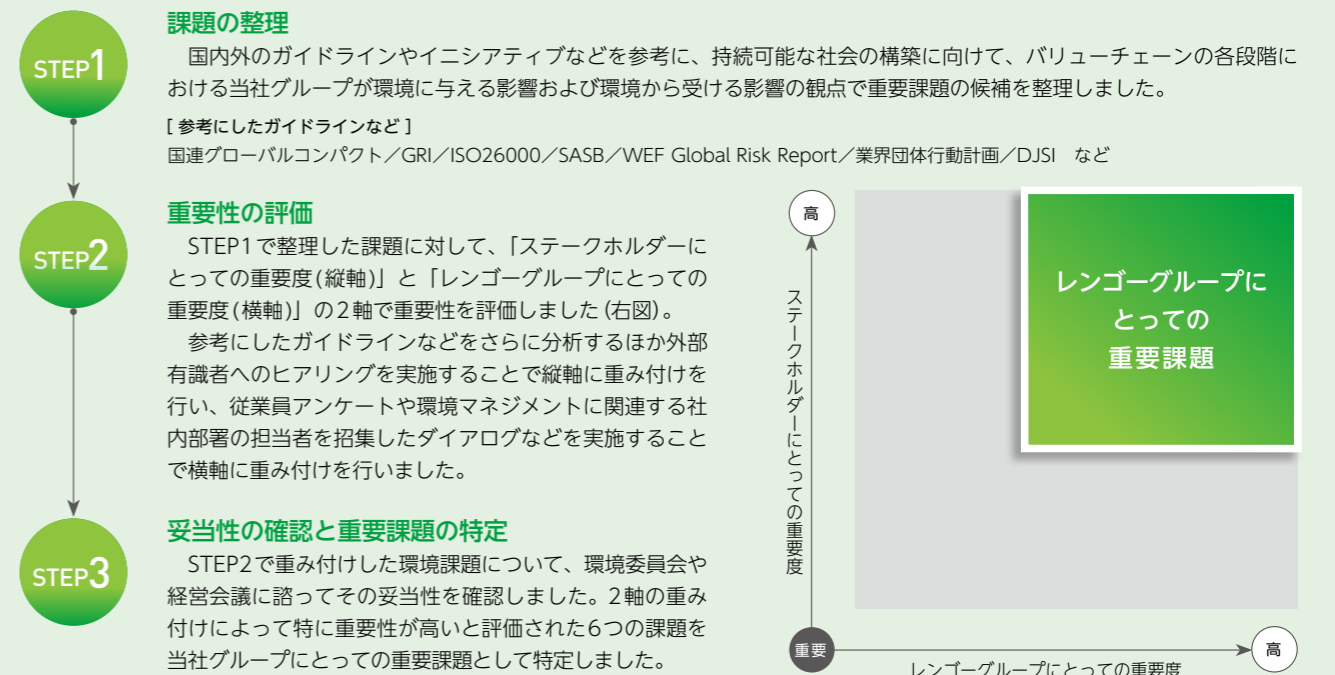
**レンゴグループ環境アクション2050**

2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとすることに挑戦する。

## 「エコチャレンジ2030」の策定

エコチャレンジは環境憲章を具現化するための目標です。新たに策定した2030年度を達成年度とする「エコチャレンジ2030」では、当社グループ全体で取り組む6つの重要課題と9つの目標を掲げています。重要課題である脱炭素社会の形成においては、CO<sub>2</sub>排出削減目標を2013年度比46%へ引き上げました。全ての目標達成に向けて取組みを進めていきます。

### 重要課題(マテリアリティ)の特定プロセス



### エコチャレンジ2030

重要課題	項目	指標	2021年度目標	2030年度目標	範囲
脱炭素社会の形成	温室効果ガス排出量の削減	化石エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量(2013年度比)	1%削減	46%削減	国内連結会社の「省エネ法」対象企業
エネルギー効率の向上	エネルギーの効率的利用	エネルギー原単位(5年平均)	1%/年削減	1%/年削減	
循環型社会の形成	資源の有効利用	板紙の古紙利用率	98%以上	98%以上	国内連結会社の板紙製造拠点
	廃棄物の削減	廃棄物の有効利用率	有効利用率の向上	99%以上	国内連結会社の製造拠点
環境問題や社会課題を解決する製品の創出	生分解性のあるセルロース関連製品の開発・普及	ビスコパール®(セルロース粒子)の生産量 REBIOS®(高バイオマス・生分解性/パッケージング材料)の採用実績(2022年度まで)	40t/年以上 2022年度末までに5件	200t/年以上 5件	レンゴ株式会社 国内連結会社
	サプライヤーとの協働によるサステナブルパッケージの開発と普及拡大	GP   レンゴのサステナブルパッケージ認定基準を策定(2022年度まで)	認定基準の策定	—	国内連結会社
	パッケージの軽量化	段ボールの平均坪量(1m <sup>2</sup> あたりの重量)	0.5%/年削減	0.5%/年削減	国内連結会社の段ボールシート製造拠点
水リスクの管理	水リスク評価とリスクの低減	製造拠点における水リスクの調査と評価(2022年度まで)	調査の実施	—	国内海外連結会社の製造拠点
バリューチェーンマネジメント(下流)	製品輸送の物流効率向上	段ボール輸送のCO <sub>2</sub> 排出原単位(2013年度比)	1%削減	13%削減	レンゴ株式会社